

桜ヶ池

(さくらがいけ)



全景



春の桜ヶ池(湖面を望む)



ギフチョウの「放蝶会」

ため池の概要

ため池の所在地

富山県南砺市

ため池の特徴

砺波平野を一望する台地にあり、生産性の高い優良農地530haを支えるため池です。戦後800本の桜と400株のつつじが植栽され、公募により「桜ヶ池」と名付けられた池は、桜の名所として地域の人々に親しまれています。

河川からの取水に頼り、夏には用水不足で水争いが絶えなかったこの地域の農業振興のため、豪農・井口仁志氏は、昭和10年頃から関係村々の村長らと共に、地元農家の啓発に努め、貯水池の築造運動を展開しました。

池の適地は陸軍演習場内にあり、困難な交渉の末、昭和16年に開削を始めましたが、戦時中で、資材や労力が不足し工事は遅々として進まず、戦後昭和28年になってようやく完成しました。

周辺には里山特有の生物が数多く生息しており、地元の小学校では、体験学習で絶滅危惧種のギフチョウの育成と桜ヶ池周辺での放蝶を行っています。社会学習では、ため池ができる前の農家の苦労、先人の熱意と努力、ため池の水が田んぼに至るまでを、土地改良区の方が伝えています。

また、池に隣接するハイウェイ・オアシスは東海北陸道全線開通を契機に来訪者が増加し、桜ヶ池は都市農村交流の場として、地域活性化に重要な役割を果たしています。

関連情報